

積宗演だより

第5号

発行/積宗演を顕彰する会
会長/伊藤 彰
福井県大飯郡高浜町
藪部 49-16 (松和塾)
電話/0770-72-1353

◎募金のお願い
積宗演を顕彰する会では顕彰にかかる経費について募金をお願いしています。ぜひご協力お願い申し上げます。詳細は事務局までお問い合わせください。

ZEN高僧ふるさとツアー 積宗演 禅三味のつどい

幕末明治 福井 150年博



高浜の文化を世界に発信 9月日本在住外国人を対象に開催

没百年積宗演を顕彰する会は今年10月28日の記念式典、顕彰碑の建立など準備を進めています。福井県が進める「幕末明治福井150年博 ニッポンの夜明けは福井から」記念事業として高浜町の偉人積宗演を発信する諸事業を行います。今回「禅の高僧積宗演 ふるさと高浜」を外国の方に知ってもらおうイベントを9月に開催します。高浜の禅文化のふるさと小京都、鮎、食の文化として発信します。

福井県は国体開催の今年、幕末明治福井150年博として近代日本の礎を築いた福井の先人たちに会いに行こう博を県下全域で展開しています。高浜町では禅を世界に広めた明治の高僧積宗演にス

ポットを当てた取り組みが進められています。顕彰する会では「禅三味のつどい」として9月15日、16日、高浜町日置の臨濟宗建仁寺派大成寺、同17日臨濟宗相国寺派元興寺に於いて主に外



10月記念事業成功に向け全力 今年度総会を開催

顕彰記念事業の本番を本年10月に控え、平成三十年代定期総会が、4月14日(土)午後一時三十分より、高浜公民館多目的ホールにて開催されました。当日は委任状出席も含め、95名の参加者がありました。

開会にあたり、顕彰する会の伊藤会長から顕彰記念事業の成功に向けた一層の取り組みと会員への協力要請があり、来賓である野瀬高浜町長から顕彰記念事業達成への激励のご挨拶を頂きました。早速議事に入り、今回上程された議案に対し各担当責任者から報告が行われ賛成多数により承認されました。

「禅と日本文化」講演も

その後「禅と日本文化」と題し、おおい町若州一滴文庫学芸員下森弘之氏による講演が行われ、積宗演の人脈や偉業、人柄などについて約1時間にわたり幅広く講演頂きました。

没百年記念出版

「積宗演と明治 ZEN初めて海を渡る」
— 中島美千代著 —

没百年を記念して禅の高僧積宗演を紹介する書籍発刊が相次いでいますが、このほど「積宗演と明治」をタイトルとした積宗演の歩



み、足跡を紹介する本が発行されました。著者は福井市出身の中島美千代氏。①ふるさと若狭高浜青葉山と白い砂浜の町で始まり②出家③慶應義塾で洋学を学ぶ④セイロン遊学⑤管長就任等7章で構成され、最後にZENは世界へ、弟子たちの苦難の道は遠く、で終わっています。

その功績を讃えると共に、禅の高僧の故郷であり、大陸文化の玄関口として和と食の故郷若狭高浜の魅力在海外に発信する場として開催します。

その功績を讃えると共に、禅の高僧の故郷であり、大陸文化の玄関口として和と食の故郷若狭高浜の魅力在海外に発信する場として開催します。

円覚寺、東慶寺等訪問

宗演の偉業に心寄せて



宗演の墓に参拝



6月11日(月)から12日(火)にかけ積宗演の活躍した鎌倉市にある円覚寺、東慶寺、

建長寺を町民有志19名(自己費)で訪問しました。鎌倉は宗演が管長を務めた名刹円覚寺、東慶寺があるゆかりの地です。

円覚寺は鎌倉五山の第二位で、臨済宗円覚寺派の大本山。宗演が32歳という若さで管長を務め、禅を国内だけでなく世界に広めた寺院です。東慶寺は宗演が管長を辞した後入山、元は尼寺だった寺を禅寺として中興。当時の居士、哲学者、政財界人等多くの方が参拝しました。宗演が眠るお墓もここにあります。

積宗演ついに漫画に 積宗演ZEN『上巻』発刊

マンガで知ろう!!



著名な漫画家井上雄彦氏のチーフアシスタントで福井県出

身の高島正嗣氏の作品が漫画本として発刊されました。積宗演没100年迎える、ZENへの関心が全国的に高まる

中、発行されました。横田円覚寺派管長が監修。タイトルは「福沢諭吉、夏目漱石、ステイブ・ジョブス

までなぜ彼らは禅ZENに魅了されたのか!近代日本を破天荒に生きた禅僧の生き様を初の漫画化!とあります。上巻には郷土愛深い高浜の宗演の少年時代が描かれています。上・下巻での発刊。上巻1296円日経B.P社発行。下巻は今秋の予定です。最寄りの書店でお求めください。

たこともあり、参加者は宗演ゆかりの名刹に心を寄せていました。

◎地域の社会人向け 公民館で学習会開催

5月25日(金)午後1時30分と午後7時から高浜公民館において積宗演学習会を開催しました。各小学校で子供たちへ積宗演の偉業学習会を開催していますが、今回は地域社会人向けの学習会です。今後順次、各公民館を会場に開催する予定です。

慶応義塾塾長の挨拶後、積宗演の功績についてそれぞれ講演、対談し近代日本の仏教を超え世界の恒久平和を見据えた偉大な人とたたえられ多くの人が熱心に聴講し、メモ

講師は松岡茂和幹事です。内容は①高浜の偉人②日本の歴史と禅③積宗演の偉業と魅力、人脈、性格④顕彰活動の目的意義等各二時間、資料に基づき積宗演の生きざまを学びました。

一昨年の暮れ、私は初めて高浜の町を歩いた。友人が「鎌倉漱石の会」の事務局をしており、会報に積宗演のふるさと高浜を訪ねる紀行文を書かないかと誘ってくれたからである。私は積宗演を知らなかった。漱石の作品『門』を読みなおし、資料にあたり、少しばかりの知識を得た。



シリーズ④ 私と積宗演 『積宗演と明治』を 書くまで 中島 美千代

禅僧の修行をひと通り終えたあと、師の反対を押し切って慶應義塾へ入り、セイロンへ渡る。管長になったあとは、シカゴ万国宗教会議で初めて禅を伝えた。多くの仏教書や研究書には、宗演が近代日本に果たした役割や功績が記されている。しかし生きた宗演は見えてこない。青葉山と青い海を見ながら、私は

宗演を探していた。

帰ってから、書簡集を見つけた。まさか死後に出版されるとは思わず、宗演がその時々々の心情を綴った書簡である。慶應に入りたこと、セイロンで貧困に耐えていることなど、書簡には宗演の熱い血が流れている。宗演は淋しがり屋でもあった。人間味あふれる宗演が書簡の中にある。それでもまだ迷いはある。僧侶が書けるだろうか。

およそ二カ月後、私は再び高浜の町を歩いた。商店街はひな祭りで賑わっていた。ひな人形を飾った店の人と会話し、もらったキャンディーや菓子を持って海沿いの道を歩く。

青葉山は冬枯れのままで、海は鈍色に光っていた。宗演が生涯、心においた山と海のある町である。仏教書や研究書ではなく、紀行文でもなく、評伝の中でこそ、生きた宗演が書ける。二度目に歩いた高浜の町で、私は何としても積宗演を書きたいと思った。

◆積宗演の名言・和歌紹介

わが身をば 何にたとえん 白雲の 山ある里は家路なりけり

東慶寺石塔には自作が前の住職 古川禿道の子で刻まれている。僧侶としての短歌が多い中から、なぜこの歌が選ばれたのかはわからない。しかし故郷と家族を恋慕う宗演の哀切な気持ちがよく表れている。この歌こそ出家から五十年の歳月、宗演の心を占めていた思いだったに違いない。(中島美千代著「積宗演と明治」より)